

令和7年度 金木地域住民懇談会④ 案件・回答

開催日時：令和7年10月7日（火） 18時00分～19時05分

開催場所：川倉ふれあいセンター

参加住民：5名

出席議員：和田祐治議員、秋田幸保議員、黒沼剛議員、桑田哲明議員、
伊藤永慈議員

懇談テーマ：

未来へつなぎたい・守りたい地域の強みについて～2040年に向かって～

【今後の人団推移とまちづくりの理念について説明】（ふるさと未来戦略課長）

【意見等】

①テーマに関するもの

Q) 人口減少・少子高齢化が進む中、今後重要なのは介護をはじめとした高齢者福祉だと思う。人材不足もあるし、施設に入れない人が出ると、家族が介護のために仕事を辞めなければならなくなることもあると思う。市では福祉について、どのような対策をしているか。

A) 市長：2040年は65歳以上の高齢者が全国的に最も多くなる時期で、介護職は全国でおよそ57万人足りなくなると言われています。

その現状を見据え、市では「五所川原市認知症の人とともに生きるまちづくり条例」を施行し、認知症フォーラムや小学生への認知症サポーター養成講座の実施など、施設に入ることができなくても周囲の支えを受けながら地域で暮らしていく社会を目指した取組を行っていきます。今後は一人一人ができることをして高齢者を支え、地域を守るという構図になっていくと思います。

また、今のうちから社会福祉協議会が行政の福祉の補完ができる組織になるようにバックアップを行い、行政、社会福祉協議会、地域の方々の力を合わせて高齢化社会を支えることが最優先であると考えています。

Q) 市ではどのような少子化対策を行っているのか知りたい。

A) 市長：市や県としての少子化対策は、あくまで今現在結婚している方々が出産できる動機付けになるような子育て支援が中心です。人口減少を食い止めるための少子化対策は、国が長期的な計画を立てて行うべきものだと思っています。地域の少子化対策となると、婚活など、結婚・出産適齢期の方々を誘導することくらいしかないとと思っており、人口減少を食い止めるための市独自の施策というものはありません。

②テーマ以外のもの

Q) 金木町の民生委員の平均年齢も70歳を超えてきている。民生委員の仕事を充実させて重要性を持たせたり、市職員の方が将来民生委員になるなど、若い人たちも老後のためにできることを考えながら生活していくことが重要だと思う。

A) 市長：福祉政策課で全ての地域を回って、できる限り空白地域を埋めようとしています。空白地域については既に、市職員や学校教員のOB・OGを町内の中で探してお願いするようになっていますが、その地域に元職員や教員の方自体がいらっしゃらなかつたりと、簡単にはいかない面も多くあります。

Q) 金木町に子どもたちの勉強スペースがほしい。

A) 金木総合支所長：申請が必要ですが、金木駅の2階は使用可能です。また、金木総合支所2階のラウンジは18時まで、前日までに申請があれば21時まで使用できるようになっています。

Q) 高校生時代、駅が寒くて、勉強等で待ち時間を過ごすのに大変だった。改善されると嬉しい。

A) 市長：駅についてはJRなどと話をしてみないとなんとも言えませんが、外部に依頼してスペースを作ることが難しいからこそ、市役所1階の土間ホール・2階の談話コーナーを開放しているほか、立佞武多の館には「学びの広場」設置を予定しています。その範囲内で、自主学習や地域活動のために効果的に利用していただければと思います。

Q) 芦野公園の浮き橋をどうするのか。修理の計画がないのであれば撤去してほしいという話も出ている。

A) 副市長：浮き橋や遊歩道などの危険な場所については、計画的に撤去していく予定です。今後は全てを元通りにするのではなく、桜が見られるところを中心に重要性の高いところを集中的に改良する方向で検討しながら進めています。

Q) 芦野霊園の道路脇の桜の木が何本か枯れている。他にも芦野霊園周辺に老朽化している木がある。

A) 金木総合支所長：現場確認を行い、必要であれば伐採等、対応を考えます。